

変貌する新潟 人とまちをつなぐ橋

架橋からおおよそ20年、萬代橋は新潟にとってなくてはならない存在になっていました。そして二代目萬代橋は明治、大正、昭和にまたがり新潟の都市化、近代化を支え、今に続く新潟市の基礎づくり大きく貢献しました。

9月1日は防災の日。突如焼け落ちた初代萬代橋の物語から、暮らしに欠かせない社会資本についても考えてみてください。

橋の重要性を痛感させた 2度の火災

新潟沼垂合併の架け橋に

北越鉄道が沼垂駅から新潟駅（現在の新潟市中央区の弁天公園付近）に延伸した1904（明治37）年以降は、駅（沼垂町側）から新潟市へという人、モノの流れができ、萬代橋の重要性はますます高まりました。

1908（明治41）年2月2日、旧正月で賑わっていた沼垂町で火災が発生。この時、対岸の新潟市に1台だけ配備されていた放水車が初代萬代橋を渡って消火の応援に駆けつけました。沼垂の人々はその威力に圧倒された。当時の新聞は伝えています。

翌日、延焼を防いでくれたお礼に安倍九二造沼垂町長が吉田良治郎新潟市長のもとを訪ね、両者の間で合併に向けた懇談会の開催が約束されます。江戸時代から長岡藩（新潟）、新発田藩（沼垂）に分かれて港を巡って争ってきた両者の間を、萬代橋が文字通り架け橋となって結んだ出来事でした。

初代萬代橋焼失

新潟沼垂合併の端緒を開いた火災からひと月後、今度は対岸の新潟市東堀通を火元に火災が発生します。強風にあおられた炎が萬代橋に燃え移り焼失。前月のお礼にと橋を渡って応援に駆けつけた沼垂町の消防夫をはじめ、多くの人が家に帰れなくなりました。

焼失で橋がなかった間は どうしたの？

信濃川に架かる橋は新潟市内には萬代橋しかなかったため、駅のある沼垂と新潟の往来は船になりました。県は火災翌日から渡し船の就航を決めました。1日の利用者およそ5千人を運ぶために、汽船で複数の和船を曳航して対応しました。焼け残った部分を活用した仮橋が完成するまでの114日間に、汽船の往復回数はおおよそ7600回。駅に到着した郵便物を運ぶ郵便船も2千回あまり往復しています。



乗客で混雑する渡船場の様子

二代目萬代橋が竣工

人々にとってなくてはならない存在になっていた萬代橋は翌年の1909（明治42）年12月、予定より1カ月早く竣工しました。橋杭は初代のもので、幅を広げた他は欄干、橋柱のデザインなども初代萬代橋を踏襲しています。竣工式では当時まだ珍しかった自転車による市街パレードが目玉でした。

インフラ整備着々と

1914（大正3）年、沼垂町と合併した新潟市は人口9万1604人でスタート。明治以降、北洋漁業や対岸貿易に乗り出していた企業が多かった新潟市は、近代的な港湾整備のため沼垂側に用地を求め、沼垂町では萬代橋を経由した上水道の延伸を求めています。二代目萬代橋は人モノに加え、ライフラインをつなぐ役目も果たすようになりました。

まちづくりの中心は萬代橋

1919（大正8）年に国が都市計画法を施行すると、新潟市でも都市計画が盛んに議論されるようになります。新潟市議会では、萬代橋を中心として新潟駅から桓谷小路と信濃川の十字交差点を骨組みとした都市計画がなされるべきという共通認識ができていました。こうした議論の中で、いまだ信濃川を越えていない軌道を萬代橋経由で敷設するという計画が浮上。加えてこの頃から新潟市でも自動車が見られるようになっていました。これにより木橋から鉄筋コンクリート橋への架け替えを求める声が高まっています。

自動車増加で 別名「ボタン橋」に

二代目萬代橋の別名は「ボタン橋」でした。自動車が増えるたびに「ボタン、ボタン」と板の跳ねる音がしたからです。当然板が外れる場所もあり、近郷の修学旅行生の間では足元から川面をのぞき込む恐怖体験が流行していました。



人力車や自動車が行き交う橋の上

新潟の経済発展と文化

沼垂町と合併し域を広げた新潟市は、市街に娯楽施設や洋風建築が建ち始め、賑わいを増していきます。1904（明治37）年に現在の弁天公園付近で新潟駅が開業し、駅から萬代橋を渡って古町など繁華街へ行く人の流れが定着していったのです。

経済、産業面では沼垂側の土地で近代的な港湾が整備され、新潟港を基地にした北洋漁業と対岸貿易がますます盛んになります。また港周辺では工場誘致も行われ、地域産業を支える条件が整いました。

漁業や対岸貿易、鉄道を利用した米取引などが盛んになったことで、新潟の経済界は斎藤喜十郎ら、それまで主流だった地主層とは異なる有力者が誕生。新潟市にある旧斎藤家別邸は、1918（大正7）年に迎賓館として建設され、県内外の経済人を迎え、交流の場として賑わっていました。

文化面では、沼垂側にも賑わいが生まれたことで、この頃沼垂芸妓が育ちます。萬代橋には古町の師匠のもとへ通う芸妓見習いの姿がありました。後に「東京音頭」が大ヒットする小唄勝太郎もその中の一人です。

萬代橋によって市域を広げ、新潟市はより多くの人とモノが行き交う都市へと変貌を遂げました。

二代目萬代橋 data



全長/782m
幅/7.9m（初代から60cm拡張）
竣工/1909（明治42）年12月23日

仮橋と並行して完成部分から供用を開始しており、12月23日は全通日。川底に打ち込んだ杭は初代萬代橋のものを使用していました。



洋風建築が見られるようになった大正時代の新潟市古町

〈次回予告〉
第3回は10月22日に
掲載いたします

大河津分水路通水で
信濃川の川幅は約1/3に
用・強・美を兼ね備えた
三代目萬代橋が誕生します

にいがた みちコラム

街と暮らしを
支え続けるために

信濃川に入り行われた萬代橋補修の様子



適切な点検と補修が、架橋から87年を経た三代目萬代橋を支えています。2012年に行った定期点検で橋梁部アーチ下面などでひび割れが見つかり、補修を行いました。

〈お知らせ〉

萬代橋130周年事業

初代萬代橋架橋から130年を迎える11月にむけて、新潟国道事務所、新潟県、新潟市、新潟日報社では実行委員会を組織し、写真コンテスト、シンポジウムなどの記念事業を実施していきます。詳しくは、ホームページをご確認ください。



問い合わせ先/萬代橋130周年事業実行委員会事務局（新潟日報社広告部内）025-385-7432（平日9:30~17:30）

萬代橋130 検索

萬代橋130周年 フォトコンテスト

作品募集!

「萬代橋と〇〇」をテーマにした写真をご応募ください。詳しい応募方法などはホームページでチェック!